

キャラクター名
カルンシュタイン

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー		ワークス	生徒会役員C	カヴァー	生徒会役員
	パロール					
オプション			年齢	15	性別	女性
覚醒	生誕	衝動	自傷	初期侵食率	37	%
出自	権力者の血統	経験	絶縁	邂逅	家族	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1		0			1	行動値	10
感覚	3		0			3	(非装備時)	10
精神	3	1	0			4	戦闘移動	15
社会	1		0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	RC	4r+2		0		1+2+3+4
	RC	4r+2				1+2+3+4+5
	RC	4r+2				1+2+3+4+5+6

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
Aランクスペシャリスト	
プラスランク	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイマス消費
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
Cl:Br	2	2	メジャー	-	-	対決シンドローム	-	
効果:								
赤色の従者	1	4	メジャー	視界	単体	対決RC	-	
効果:								
声無きものども	4	3	メジャー	-	範囲(選択)	対決シンドローム	-	
効果:								
赤河の従僕	4	5	メジャー	視界	単体	対決RC	80↑	
効果:								
死神の瞳	5	3	メジャー	視界	単体	対決RC	-	
効果:								
オリジン:レジェント	1	2	マイナー	至近	自身	自動成功	-	
効果:								
血の絆	1							
効果:								
ブラッドリーディング	★							
効果:								
瀉血	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

代々吸血鬼を名乗ってきたオーストリアの貴族であるカルンシュタイン家に生まれた少女。この家系の者の多くはブラムストーカーのシンドローム発症者であったと見られているが、現在残るカルンシュタイン家の者が彼女一人であるため確認は取れていない。

カルンシュタイン家は代々吸血鬼を名乗り、そしてその血を絶やさぬため、当主は非常に慎重に婚姻を結んできた。先代当主は娘ー彼女の母のみを生み世界、周囲はカルンシュタインの血を引く家系から端を取ろうと縁談を進めていったが、当の本人は家と全く関係の無い男性に惚れ込み大恋愛の末【PC名】を出産。そのまま家を捨て男と共に行方を眩ます。残された者達は途方にくれたが、残された幼子が吸血鬼として覚醒することを祈り育てていく。そして、ある日。遂に彼女がオーヴァードとしての力に覚醒。人々は歓喜の声を上げる。が。発祥したのはブラムストーカーのシンドロームだけではなかった。何故か、同時に覚醒したのは重力を操るパロールの力。浮かぶ魔眼と球を成した鮮血。人々は啞然とし、同時に悟る。彼女の母と共に行方を眩ませた男性……彼もまた、オーヴァードであったことに。純粋なる吸血鬼としての血は絶えた。しかし、育ててきた少女に愛着もある。彼等はその後も城に残り、少女を頂として付き従うのであった。

アカデミアに入学するまでの彼女の生は自身を快く思わない者達との静いに終始する。縁談を蹴られた家々だけではなく、城に残った者達の中にさえ彼女を認めないとして派閥が生まれる始末。そういった者達と敵対し、時には切り捨てながら生きる日々。

性格は少々自堕落だが、貴族としての矜持が責任感強い。自身が望まれて生まれた子ではないと知っているため心を開けず、城に居る間も孤独の中であった。そんな生活の中で出会ったのは、一体の人形。その人形は薄汚れてぼろぼろで。そんな人形に不思議と惹かれた彼女は人形を拾い補修し、自室に迎え入れた。そうして、ある日。抑圧への苛立ちや孤独に拠る自傷の日々。そんな中で、彼女の抱いた人形へと、偶然、一滴の血が触れる。その血を媒介として人形はレネゲイドウィルスに感染する。自我に目覚めた人形は、カルンシュタイン家に伝わる伝説……吸血鬼伝説の登場人物であり、そして書き手であった一人の少女の名を名乗った。血筋の謂れを伝える伝説を核とするレネゲイドビーイングとして覚醒した人形は、家族のいない彼女の唯一の理解者として生活を共にしていく。